

単元名 音楽今昔

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能や、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や歌い方、楽器の音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するか、まとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、音楽のよさを見出し、味わって聴いたりすることができる。
- (3) 我が国や諸外国に伝わる様々な音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070205_001

【教材名】ソーラン節（歌唱等）秩父屋台ばやし（鑑賞）葛西ばやし（鑑賞）おはやしづくり（器楽 音楽づくり）サムルノリ（鑑賞）サンバの音楽（鑑賞）朝の歌（器楽）おどれサンバ（歌唱 器楽）（P. 38～P. 47）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、映像資料、リコーダー、締太鼓、長胴太鼓、各種打楽器（ラテンパーカッションを含む）、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ソーラン節」を掛け声などを工夫しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ソーラン節」を歌う。 ★伝えられてきた歌を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、旋律を捉える。 ・漁の作業歌であることを簡単に理解する。 ・掛け声を入れて歌う。 ○歌い方について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教材の「ソーラン節」の音源を聴き、歌い方について意見を交換する。 ・手拍子や掛け声を入れながら歌う。 ○リコーダーの前奏を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱して、演奏する。 ・日本の笛のように吹いてみる。 ○音頭一同形式で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「歌い手役」と「みんな」とに分かれ、手拍子や掛け声を入れて歌う。 ・「歌い手役」を交代しながら歌う。 ・友達の表現のよいところを交流する。 <p>2～3 日本のお祭りの音楽や民謡に親しみ、その特徴を感じ取りながら演奏を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「秩父屋台ばやし」を聴き、お囃子のリズムや楽器の音色に親しむ。 ★おはやしのリズムを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・お囃子に使われているリズムを感じ取りながら聴く。（＜おはやしづくりにチャレンジ＞のリズムを参考に聴いてもよい。） ・使われている楽器について、写真や資料などを見て理解し、演奏する真似をしながら聴く。 ○＜おはやしづくりにチャレンジ＞に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の締太鼓、大太鼓のリズムをそれぞれ口唱歌で唱え、机などを打って練習する。 ・それぞれの太鼓の名前や打ち方を理解する。 ・大太鼓のリズムを自由に組み合わせ各自練習する。 ・締太鼓のリズムに、工夫した大太鼓のリズムを重ねて楽しむ。 ○おはやしの旋律を即興的につくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミソラシレミから隣り合った音で3音程度選び、リコーダーで即興的に吹いてみる。 ・4小節または8小節の長さになるように、各自旋律を工夫して練習する。 ○グループでお囃子をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで簡単なおはやし（8～16小節）をつくり練習する。 ・つくったお囃子を発表し、気付いた点を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網から魚をタモで救う際の歌だったことを伝える。 ・いろいろな旋律がある曲であるため、鑑賞音源は必ずしも教科書楽譜の旋律で歌っていないが、歌手の発声やこぶしなどに注目して聴かせる。 ・ダンギングしないで吹いてもよい。 ・【共通事項】旋律 音色 呼びかけとこたえ 【評】旋律や歌い方を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・「日本のお祭りをたずねて」の見開きを利用し、地域に伝わる音楽に言及して学習に入る ・導入として、＜日本のお祭りをたずねて＞の中から選んで聴くか、自分たちの地域のお祭りの音楽やお囃子を聴き、特徴を感じ取る活動もよい。 ・演奏をしている様子の分かる資料や映像、使われている楽器を提示する。 ・P75の「日本のお祭りの楽器」にある和楽器も紹介する。 ・太鼓のリズムを口唱歌で唱えて捉えさせる。 ・それぞれの太鼓について簡単に説明し、音色や響きの違いを意識させる。 ・全員が大太鼓を体験できるようにする。 ・締太鼓や大太鼓が学校にない場合は、中太鼓や小太鼓で代用するとよい。また、ダンボール箱や古い樽、厚い雑誌や竹を割ったものを利用して楽器を作ってもよい。 【評】曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて捉えてリズム打ちする活動を通して「知識」を評価する。 ・「ふえ」を参考にさせる。 ・ラカミから始まり、レミソラシレ（最後のレは高いレ）を使ってラカミで終わらせる。 ・リズムを工夫させてもよい。 ・締太鼓・大太鼓は交代で練習できるよう配慮する。 ・できた旋律を発表し合って、つなぎ方を工夫させる。 【共通事項】リズム 反復 音の重なり

- 「葛西ばやし」を聴く。
 - ・教科書にある締太鼓の口唱歌を唱えてみる。
 - ・締太鼓のリズムを中心に聴いていく。
 - ・感じたことを交流する。
 - ＜日本のお祭りをたずねて＞を聴き、いろいろな「日本のお祭りの音楽」の特徴やよさを感じ取る。
 - ・自分たちの地域にあるお祭りの音楽や、知っているお祭りなどについて話し合う。
 - ・教科書の写真や日本地図を参考にしながら、様々なお祭りの音楽を楽しむ。
 - ・何回か聴いて、それぞれの音楽の違いや類似点などに気付く。
 - ・リズムや楽器の音色、旋律や掛け声など、それぞれの音楽のよさや特徴を感じ取りながら聴く。
 - ・人々の生活との関わりを調べてみる。
- 4～5 世界のいろいろな音楽に親しみ、サンバのリズムを楽しんで表現する。
- 「朝の歌」を歌う。
 - ★世界に伝わるいろいろなリズムや歌を楽しもう
 - ・範唱を聴き、旋律を覚える。
 - ・はっきりとした発音で伸び伸びと歌詞唱する。
 - ・リズム伴奏を加えて歌詞唱する。
 - ・輪唱する。
 - 「朝の歌」をリコーダーで演奏する。
 - ・階名で旋律を歌う。
 - ・リコーダーで演奏する。
 - ・リズム伴奏を加えて演奏する。
 - 歌い方を工夫して歌う。
 - ・遠くに呼び掛けるような声で歌う。
 - ・輪唱で歌う。
 - 「サムルノリ」を聴き、リズムや楽器の音色の特徴を感じ取る。
 - ・チャングの口唱歌を唱える。
 - ・チャングについて、写真や資料などを見て理解し、演奏する真似をしながら聴く。
 - ・気付いたことを交流する。
 - 「サンバの音楽」を聴き、リズムや楽器の音色の特徴を感じ取る。
 - ・リオのカーニバルの様子を聴き、カーニバルについて知る。
 - ・「ブラジル」を聴き、サンバのリズムに親しむ。
 - ・体を動かしながら聴く。
 - ・気付いたことを交流する。
 - 「おどれサンバ」を歌う。
 - ・範唱を聴き、旋律を捉える。
 - ・繰り返し記号と進み方について理解する。
 - ・リズムにのって歌詞唱する。
 - ・アの部分を階名唱したり運指唱したりする。
 - ・アの部分を重ねる。
 - ＜もっとあそぼう＞を参考にして「おどれサンバ」にリズム言葉（口唱歌）で伴奏を付けて歌う。
 - ・各リズムを確認する。
 - ・グループをつくり、ボイスアンサンブルをする。
 - ・「おどれサンバ」とリズム言葉を合わせる。
 - サンバのリズムを楽器で演奏する。
 - ・楽器の名前や演奏の仕方を理解する。
 - ・シェーカーやアゴゴ、フロアトムは交替で演奏する。
 - ・グループをつくり、楽器だけで重ねてみる。
 - 「おどれサンバ」を楽器のリズムで伴奏して歌い合わせる。
 - ・リズム伴奏の部分を、グループごとに演奏する。
 - ・歌とリズム伴奏が一体となって、楽しく演奏する。

【評】音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

- ・楽器の演奏が分かる資料などがあれば用意する。
- ・口唱歌を口ずさみながら、手拍子や机を打つなどしてリズムを捉えさせる。
- ・教科書以外にお祭りの映像など演奏している様子の分かる資料を準備する。
- ・特徴が分かりやすい音楽を選んで聴かせるようにする。自分たちの地域にお祭りの音楽があれば、比較させてもよい。
- ・どんなときに行われるお祭りなのか、暮らしとの関わりについて触れる（収穫のときなど）。
- ・宗教等の扱いには留意する。

- ・自然の中で歌われていたであろうことを伝え、遠くに呼び掛けるような声で歌うようにする

【共通事項】リズム 音色 反復 旋律 音の重なり

- ・下の「ド」で、右手の小指が指孔に届かない子は無理をさせない。

- ・演奏している様子の分かる資料や、使われている楽器を提示する。映像があればなおよい

- ・教科書P47のリズムを唱えながら聴かせる。

【評】諸外国に伝わる様々な音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりを捉えて聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・繰り返し記号（リピート）について説明する既習の「ソーラン節」にも出てくるので、振り返るとよい。
- ・繰り返すリズムや旋律にのって、弾む感じで歌うようにする。

【新出】くり返し記号（リピート）

【共通事項】リズム 拍 反復 音の重なり

- ・リズムの言葉（口唱歌）を唱えることで、リズムをつかませる。

- ・まずはシェーカーなど、何か一つ楽器を選んで歌と重ねさせる。
- ・楽器の名前や演奏の仕方を簡単に説明する。

- ・楽器がなければ、似た音色の楽器や、身近にある音の出るもので代用してもよい。
- ・全員が伴奏を担当できるようにグループで練習し、演奏は交代制で歌と合わせられるよう配慮する。

【評】旋律や歌い方、楽器の音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】